

平成 22 年度 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク総会

一次期総会地挨拶一



京都府舞鶴市 産業振興部長 参島 肇

改めまして、みなさんこんにちは。

私は、京都府舞鶴市から参加させていただきました産業振興部長をしております参島（みしま）と申します。まずをもって松江市での総会のかくも盛大な開催おめでとうございます。また次回来年度の開催地に立候補させていただきましたけれども、ご選定をいただいたということでありがたく存じます。舞鶴市について少しばかりのご紹介をさせていただきますしてご挨拶に代えさせていただきますたいと思います。

さて、舞鶴と聞いてみなさんは何を思い浮かべますでしょうか？たぶん“岸壁の母”ではなかろうかと。京都の舞鶴港をもっているのが舞鶴市でございます

すが、人口 10 万都市と申したいところですが、今現在約 8 万 8 千ぐらいで残念ながらやや右肩下がりで地方都市としてやや苦戦中でございます。昨今の合併で珍しくはありませんが東舞鶴市と舞鶴町の東西の町が合併して一つのまちができております。

港湾の話として、リアス式海岸の美しいところ、天然の良港で静かなところといった言い方をしています。ところで東舞鶴地域については、明治 34 年に海軍の鎮守府が設置され、東郷平八郎が初代長官である町で、つい最近の話として NHK の大河ドラマで「坂の上の雲」が始まり、うれしいことに舞鶴でもロケをやっておりまして、私も石坂浩二さんと記念撮影いたしました。海軍があった関係で赤レンガの倉庫郡がたくさんあってそういった意味でもいろいろな関係の映画のロケにも使われています。また戦後、昭和 20 年に引き揚げ港として指定され、シベリアなどから 13 年にわたって約 66 万人もの方をお迎え入れし、こうした経過から昭和 63 年にみなさんに語り継ぐべく、舞鶴市営の引き上げ記念館を作りました。現在では引揚記念館も高校の修学旅行生が訪れるような場所にもなっています。その他、海上自衛隊、第 8 管区海上保安本部や保安学校もあり、日本の海を守る要の街となっている事が自慢です。

それから西舞鶴地域は 16 世紀の江戸時代に細川幽斎公が関ヶ原の合戦で有名な田辺城籠城戦があったこと、西舞鶴の港がまさににぎわい海道として当時は北前船など商業の港であったこと、また細川幽斎公は短歌の世界での達人でもあり、軍港都市と城下町という 2 つの異なるカルチャー、まちが昭和 18 年に合併して一緒になったのが今の舞鶴市です。

せっかくですので港の話をするので、京都舞鶴港は日本海側近畿圏における唯

一の重要港湾で、表日本の阪神、神戸港という強敵がおり苦戦していますが、関西経済圏では北東アジア向けでは舞鶴港しかない、まさに北東アジア向けの玄関だと言っており、そういった中、本年4月、舞鶴港に水深14m280mの舞鶴国際埠頭が供用し、やっと皆様方にも来ていただける準備、土台が整ったと思っています。ちなみに管理者は京都府さんです。中国をはじめとするアジア経済が大変な飛躍をとげる中、一方でグローバルな経済市場は荒波に飲み込まれたかのごとく私どももアゲインストの状況で行政の仕事をしており、今一度、京都府とともに経済界と強力に連携して精力的に足腰の鍛え直しをしているところでございます。

さて松江市さんよりバトンをいただきまして、次期の開催を担わさせていただきます。まさに日本海のにぎわい・交流海道ネットワークという名のとおり、繋がりをもって賑やかな会議、また交流をする会議といった雰囲気であればと存じており、おもてなしに向けて今日から助走をさせていただきたいと思っております。

皆様と来年舞鶴でお会いできます様祈念いたしまして挨拶にさせていただきます。だんだん。以上です。